

## 「フランス革命と哲学の現代」

本講座では、フランス革命と哲学史の関係を学ぶ。最初にフランス革命とその後の余波（ハイチ革命、1848年革命、ドレフュス事件）の歴史的経緯をたどる。その上で、ハンナ・アーレントのフランス革命批判（『革命について』）をスラヴォイ・ジジェクのロベスピエール論と対比しながら分析していく。ヨーロッパの知識人は、フランス革命の意義をめぐる論争を続けてきた（発明か連続か、テロルをどう評価するか、自由と平等の関係、民主主義と階級の関係、市民革命とポストコロニアルなど）。その論争の対立軸を解説するとともに、日本資本主義論争の関係についても若干の図式的整理を試みる。

### <参考文献>

王寺賢太「京大人文研のアルチュセーラー〈68年〉前後」、『〈68年5月〉と私たち「現代思想と政治」の系譜学』、読書人、2019年、所収論文

河野健二『フランス革命小史』、岩波書店、1959年、『現代史の幕あけ—ヨーロッパ1848年—』、岩波書店、1982年

C.L.R. ジェームズ『ブラック・ジャコバン—トウサン=ルヴェルチュールとハイチ革命』、青木芳夫訳、大村書店、2002年

スラヴォイ・ジジェク『ロベスピエール／毛沢東』長原豊・松本潤一郎訳、河出書房新社、2008年  
ハンナ・アーレント『革命について』、志水速雄訳、筑摩書房、1995年

時間 19:00～20:30

毎月(6月～11月)第4木曜開催

初回 6/27(木)

第2回 7/25(木)

第3回 8/22(木)

第4回 9/26(木)

第5回 10/24(木)

第6回 11/28(木)



### 講師

高橋若木（たかはし・わかぎ）

1980年生まれ、大学講師、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程退学、ニューヨーク州立大学大学院Ph.D.（博士論文：「ヘーゲルとアーレントのフランス革命論」2017年）。論文：「「三・一一後」とは別様に—新入管法と運動史の切断」（『情況』2019年春号）など。